

高齢者福祉論			科目コード	CL2064
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	中里 仁(上)/石附 敬(下)	



※この科目は、2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前に入学した方の「高齢者福祉論（4単位）」は『レポート課題集2014（社会福祉編）』または通信教育部HPをご覧ください。

※会場によりスクーリングを別教員（椎名清和先生）が担当いたします。

科目の概要

■科目の内容

高齢者福祉の理念および目的について学習し、あわせて現行の高齢者福祉施策の体系の全般的理解とその課題について考察します。具体的な内容は、次の通りです。

- (1) 高齢者問題の背景（高齢者人口の動向・家庭環境の変化）を中心としながら、高齢者福祉の成立要因を多角的に考えてみる。
- (2) 高齢者福祉施策の変遷を学習する。
- (3) 老人保健福祉計画・介護保険事業計画の概要を学習する。
- (4) 在宅高齢者福祉施策（サービス）の体系と概要を理解する。
- (5) 高齢者施設福祉施策（サービス）の体系と概要を理解する。

■到達目標

わが国の高齢者福祉の現状と課題を理解し説明することができる。

■教科書（「介護概論」と共通）

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度（第6版）』中央法規出版、2019年（第6版でなくても可） 第1～4・8～10・終章

（最近の教科書変更時期）2019年4月

（スクーリング時の教科書）

【10月仙台・盛岡開講分】上記教科書は使用しません。当日配付する資料を中心に講義をすすめます。

【5月仙台・オンデマンド開講分】上記教科書は使用しません。配付する資料を中心に講義をすすめます。

【東京開講分】スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。別途資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「社会への関心と理解」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

中里 仁著『特別養護老人ホームの日と人』CLC 出版、2017年

スクーリング

▶10月仙台・盛岡開講分 中里 仁

■スクーリングで学んでほしいこと

制度や政策の内容を、テキストをとおし学ぶことも大切ですが、なによりも対象者となる高齢者（人間）の福祉、すなわち高齢者の「人権・尊厳・自立とはどのようにあるべきなのか」について、受講者の皆様ひとりひとりが感じ考えていただきながら、高齢者福祉の捉え方、その際に必要な視点について、学んでいただきたいと思います。

なぜなら、高齢者の方々の人権・尊厳・自立のあるべき姿についての学ぶことは、結果、私たちの親を含めた自身の将来、そして、子どもたちの将来にも通ずる大切な学びであると考えからです。

具体的な講義の内容については、高齢者の方々が抱える生活上の諸問題について、視聴覚教材を中心に、その現状理解を図っていただくとともに、実践事例の紹介を交えながら、高齢者福祉の現状と課題、改善策、今後のあるべき姿について、受講生の皆さんと共に感じ考えることのできる、スクーリングにしたいと考えております。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	高齢者福祉とは何か（その捉え方）	福祉を1本の木の成長に例え
2	高齢者の尊厳について	貧困・年金問題・孤独死等
3	高齢者福祉施設の課題について	介護人材不足、集団ケア等
4	高齢者福祉施設の今後について	ユニットケア、ユニットケアの課題、地域分散サテライトケア等
5	地域包括ケアシステムについて	現状と課題等
6	高齢者福祉の今後についてⅠ	地域共同ケア、地域支え合いの視点等
7	高齢者福祉の今後についてⅡ	集合住宅の支え合い、集落における地域支え合い
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

視聴覚教材を中心に進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（レポート形式）：持込可

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テーマと講義内容に記された、「尊厳、高齢者福祉、虐待、孤独死、認知症、高齢者福祉施設、地域福祉等」のキーワードについて、教科書の巻末のIndex（索引）を参考に、事前に目を通しておいて下さい。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

- 1) 講義内容で関心を持った内容については、あくまでも自主的なものではありませんが、文献や他の視聴覚教材などから学びを深めてください。
- 2) 講義で学んだ内容が実践に反映できるとするならば、可能な限り実践に応用してください。

▶ 5月仙台・オンデマンド開講分 石附 敬

■スクーリングで学んでほしいこと

本講義は、①老いについての理解と、②高齢者福祉に関する制度の理解の2つの柱で構成します。前半では、ライフコースの視点から老いというものを自身の身近な問題として考えていきます。後半では、介護を中心とした高齢期の生活課題に対応した制度体系について理解していきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	老いについて①	社会的な老い
2	老いについて②	心と身体の老い
3	高齢者を取り巻く諸問題	少子高齢社会、健康・介護・経済・生活意識等
4	高齢者保健福祉の発展	戦後から介護保険制度の成立まで
5	介護保険制度とサービス体系①	制度概要、在宅サービスの体系
6	介護保険制度とサービス体系②	施設サービスの体系、事例検討
7	高齢者支援における方法	支援の方法と留意点
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイント、配付資料、教科書をもとに講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験のみ（持込全可）。※スクーリング講義で説明した内容について理解を問います。

■スクーリング事前（学習時間の目安：5～10時間）・事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の講義テーマに関係する箇所を事前に読んで、自分なりに学びたいことを考えてきてくださ

い。受講後は、体系的に知識を整理することと、それぞれの関心のあるテーマについて、書籍、論文、新聞記事など読み学びを深めてください。

▶東京開講分 椎名 清和

■スクーリングで学んでほしいこと

高齢者福祉の基本理念や制度の全体像を学んでいきます。その際、制度等を覚えるだけでなく、超高齢（化）社会のわが国において、長寿を素直に喜べるようになるために必要なしくみについて考察していきましょう。また、「老い」や「高齢者」といった概念を自分自身がどのように受け止めているのか（イメージしているのか）についても確認してみたいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	高齢者福祉の変遷と少子高齢化	高齢化社会と高齢社会、高齢者の生活
2	高齢者支援の関係法規①	老人福祉法、老人福祉施設等
3	「老い」に向き合う	加齢による変化、老性自覚、高齢者の悩み
4	高齢者支援の関係法規②	高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法
5	地域包括ケアシステム	地域包括支援センター、多職種連携
6	地域の力と現代の高齢者	インフォーマルな支援、高齢者の社会活動
7	「老い」とともに生きる	サクセスフル・エイジング、老年的超越
8	生きることの包括的支援	これからの高齢者福祉
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書に目を通していることを前提に、パワーポイントを中心に進めていきます。また、視聴覚教材や配付資料を補助的に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%：自ら作成したノートのみ持込可。試験は多肢選択式（法制度等の理解）および記述式（理念等に関する考察）にて行います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

『高齢社会白書（各年版）』には、高齢化の状況及び政府が講じた高齢社会対策の実施の状況が取りまとめられています。内閣府のホームページで閲覧できるので、事前に最新版の内容を確認しておいてください。

また、教科書を通読し、不明点を中心にノートをまとめておいてください。ただし、ノートは余白を多めにし、スクーリング中の学習内容等を追記できるようにしておいてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書第4章に記載されている法律について、条文そのものを読みながら復習してください。

また、居住地等でどのように高齢者福祉が展開されているのかをホームページを閲覧したり、イベントに参加したりして、具体的に確認してみましょう。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	高齢者の特性①	高齢期における生活の変化、家族と社会関係の変化を理解するとともに、加齢に伴う身体機能、運動能力の変化を理解する。	高齢者の福祉を学ぶ際、その特性を理解することが重要です。加齢に伴う身体的変化を充分理解されたうえで、特に「家族」と「社会関係」の変化について、テキストに書かれた内容を身近な高齢者に当てはめながらイメージ化し学びを深めてください。
2	高齢者の特性②	高齢者の精神的な変化を理解するとともに、ライフサイクルとライフコース、更に終末期ケアを含め高齢者を総合的に理解する。	社会的環境の変化や加齢に伴い、精神的な老化や心の病気等の高齢者の抱える精神的な課題を理解するとともに、誰しもが避けては通れない「死」について学びを深めてください。
3	少子高齢社会と高齢者	少子高齢社会の現状と要因を理解するとともに、高齢者を取り巻く諸問題を理解する。	少子高齢社会が国家にもたらす「その意味合い」を理解するとともに、介護問題のみならず高齢者を取り巻く諸問題について学びを深めてください。
4	高齢者保健福祉の発展	高齢者福祉の起源と生成、第二次大戦以降の我が国における高齢者保健福祉制度の発展過程を理解する。	「現在」の高齢者保健福祉制度を理解するためには、その発展過程を理解することが重要となります。それら制度の変遷を踏まえ、「将来」の制度のあるべき姿について学びを深めてください。
5	高齢者支援の関係法規①	高齢者の支援にあたり、その法的根拠となる関連法規を学ぶことは必要不可欠であります。ここでは高齢社会対策基本法の概要と高齢社会対策大綱の概要を正しく理解する。	これまでに類をみないスピードで高齢化が進んだ我が国において、その対策への基本的理念である高齢社会対策基本法を理解するとともに、社会経済の変化を踏まえ見直された高齢者対策大綱について比較関連づけながら、学びを深めてください。
6	高齢者支援の関係法規②	高齢者支援法規の基本ともいえる老人福祉法を理解するとともに、高齢者の医療の確保に関する法規内容を理解する。	老人福祉法の内容とその目的を理解するとともに、高齢者の生活に深く関連する「医療」の確保に関する法規を理解することにより、その連携の重要性について学びを深めてください。
7	高齢者支援の関連法規③	高齢者虐待防止法、バリアフリー新法、高齢者の居住の安定確保に関する法律、権利擁護と成年後見制度等の内容を理解する。	これらの関連法案は、家族構造や社会構造の変化に対応すべく作られた法律です。特に高齢者虐待についての正しい理解、そして成年後見制度について学びを深めてください。
8	高齢者を支援する組織と役割①	行政機関の役割、指定サービス事業者、国民健康保険団体連合の役割を正しく理解する。	国・都道府県・市町村それぞれの役割、そして様々なサービスを提供する指定サービス事業者の役割を理解することが、現在の高齢者支援の基本となります。国民健康保険団体連合の役割を含め、学びを深めてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	高齢者を支援する組織と役割②	地域包括センターの組織と役割、その目的、市町村の責務、活動の実態を学ぶとともに、「地域包括ケア」における役割を理解する。	2015年4月の介護保険改定の内容においても重要な役割を果たす地域包括支援センターを理解し、併せて活動の実態を踏まえ、「地域包括ケア」の具現化における、その現状と課題について学びを深めてください。
10	高齢者を支援する組織と役割③	地域福祉推進の要でもある社会福祉協議会の役割、ボランティア団体、NPO等を含めた非営利民間活動の現状を理解する。	社会福祉協議会という名称については、多くの皆さんが承知されておられますが、その設立の目的や歴史の変遷、そして現状と課題について、あまり理解されていない実情もあります。地域福祉の理解を深めるためにも学びを深めてください。
11	高齢者支援の方法と実際①	高齢者理解の方法、個人・家族相談援助、グループ相談援助、ケアマネジメント等、相談援助に必要な方法と実際について理解する。	高齢者支援において最も重要なことは、「その人（高齢者）を理解する」ことです。支援にあたっては、支援者の個人的な経験値を尺度とした理解や支援ではなく、さまざまな相談援助の「技術」や知識が必要となります。その実際について学びを深めてください。
12	高齢者支援の方法と実際②	介護保険法に基づき、またケアマネジメントの技術を駆使し、要介護状態であっても自宅で暮らし続ける（たい）高齢者の支援や虐待を受けている高齢者の支援について、具体的事例をとおり、専門職間の連携の在り方を含め理解する。	制度内容を理解したうえで、実際の支援がどのように行われるのか、そのために必要な専門職とは、その役割とは等、ケアマネジメントの流れに沿って紹介されています。実際の事例から学びを深めてください。
13	高齢者を支援する専門職の役割と実際①	専門職の役割と実際、専門職による協働（多職種連携）について、チームとはチームアプローチの展開と実際について理解する。	複合的ニーズのある高齢者に対し、さまざまな分野の専門職の支援が必要となります。ここでは専門職役割と実際、特にチームアプローチの重要性について学びを深めてください。
14	高齢者を支援する専門職の役割と実際②	専門職に必要な倫理とは、社会福祉士や介護支援専門員に必要な倫理とは何か理解する。	専門職にとって、知識や技術が重要であることは承知のとおりです。その根幹を成す「倫理」について、社会福祉士の倫理要綱、介護支援専門員の倫理内容から学びを深めてください。
15	近未来の高齢者福祉の課題	近未来の高齢者が直面する課題、その解決に求められる支援システム、高齢者を対象とした就労や学習支援システム、予防システムについて理解する。	高齢者人口の増加、要介護後期高齢者の増加、認知症高齢者の増加、若年労働力の減少、エネルギーや環境問題を含め、近未来に予想される諸課題について、俯瞰的な視点から学びを深めてください。

■レポート課題

1 単位め	「高齢社会とは何か」「高齢者とは何か」、そして病や死の時期の「尊厳のあり様」について自らの体験等に基づき、見解を述べよ。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web 解答可）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

「高齢者福祉論」の学習は、全般的には高齢者福祉施策の体系に関する知識的理解が中心となりますが、最終的には履修者各自の高齢者観（像）の再考と“古い”＝生きることへの価値観を涵養することにつきます。したがって、「高齢者福祉論」を履修される方は、単なる知識的理解に留まることなく（これも大切な学習ですが……）、常に自らの人生経験と絡め、考察し続けながら学習をしてください。

1 単位め アドバイス

そもそも“高齢者”“老人”とは何かを、各自もう一度自分と関連させながら考えてください。人間は何歳から《老人》になるのか、いつから《大人》になるのか、そしていつ《子ども》であることを卒業(?)するのか。借り物の知識ではなく、自らのまた身近な方の例をあげながら述べてみてください。そして、「あなたは年齢を重ねた時、“高齢者”と呼ばれたいですか、それとも“老人”ですか」。レポート作成過程で自らの“高齢者”観が確認できればよいのですが……。

なお、レポートに要求する内容を考えると、**1,800字以上**でまとめてくださることを希望します。1,800字未満では再提出になる可能性が高くなります。

2 単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

テキストの内容を自身で要約することにより、下記の項目について理解を深めてください。

- 1) 「地域包括支援センターの役割と4つの業務内容」について記述ください。(第8章、p.224～225)
※地域包括支援センターの役割と業務について理解しているか。
- 2) 「社会福祉協議会が力を入れる介護予防・福祉増進サービス活動内容」について記述ください。(第8章、p.235～236)
※高齢者福祉事業への社会福祉協議会の取組みを理解しているか。
- 3) 「ボランティアの原義」について記述ください。(第8章、p.237～238)
※ボランティア団体・非営利民間活動について理解しているか。
- 4) 「高齢者支援における4つの留意点」について記述ください。(第9章、p.258～259)
※高齢者支援における留意点を理解しているか。